

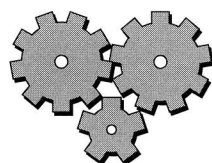
NPO法人

北九州TSニュース

Kitakyushu Techno-Support

2005

1



通巻4号／平成17年1月14日発行
発行／NPO法人 北九州テクノサポート
・発行人 秦 吉昭 ・編集人 三上 亨
北九州市戸畑区中原新町2-1・北九州テクノセンタービル2F
〒804-0003 Tel・Fax093-873-1453



新年のご挨拶

会長 秦 吉昭

新年明けましておめでとうございます。はや21世紀も5年目を迎えることになりました。昨年は地震、台風、豪雨によるたび重なる自然災害に見舞われました。一方日本の産業は報道によりますと、中国経済の進展により自動車、造船、鉄鋼等の製造業は活況を呈しており、他方鋼材や船舶の不足、円・原油・原料高が業界を直撃しているようです。また、デジタル家電の一服感や機械製造業などの受注減など不安定な状況が報じられています。北九州地域の企業にも多大の影響がみられますが、如何かと案じております。

さて、昨年1年を顧みますと、「産業振興を通じてまちづくり」に貢献しようと法人化後2年9ヶ月が経過し、会員89名で部会活動を通じ展開してきました。部会は「産学連携」「技術・経営」「ISO」「ECO」「IT」の5支援部会と「広報」1部会です。

まず知名度と認知していただくために活動や提案等を積極的に取り組みました。その結果、お陰様で徐々に認知もされ委託事業や研究プロジェクト等の受注に結びついて参りました。

特に「金属プレス成形金型産学連携研究会の発足」「北九州エコプロダクツ事業、北九州産業技術博物館企業調査業務への協力」「ISO認証取得、内部監査企業支援」「中小企業情報調査、相談・専門家派遣の協力」「IT化支援・協力調査」「PR・広報ニュースの発行」等の活動に結びつき、実績を積むことができました。これも偏に関係先のご

理解と会員皆様の協力のお陰だと感謝しております。

本年は、3年目にあたり「石の上にも3年」と申しますが、正念場だと思っております。より充実した活動を継続し軌道にのせるため、部会を中心とした活動を活発に展開すべきだと考えております。さらに一層の情報収集や営業活動が必要であり、事業の展開には欠かせず、ひいてはこの取り組みが顧客ニーズの解決につながります。

昨年からの継続プロジェクト「金属プレス成形金型産学連携研究会の2年目」や「産学連携・TLO・大学等への協力」「北九州環境産業政策、北九州産業技術博物館への協力」「ISO認証取得、エコアクション21、内部監査企業支援」「中小企業相談・専門家派遣の協力」「IT化支援・協力」「PR・広報ニュースの発行」等を含め、新たなプロジェクトをしっかりと受け止めなければなりません。

中小企業の皆さんや（財）北九州産業学術推進機構、県・市、関係団体、大学・高専等との親密な連携化を強め、各界のシーズ・ニーズを受け止め、プロジェクトを推進すべきだと考えます。今後、健全な体質を築き、財政基盤を確立するため、関係各位のご指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。



新年のご挨拶

北九州市長 末吉 興一

明けましておめでとうございます。

昨年、北九州市では、都心部の賑わいの回復、国際物流特区をテコにした企業進出など、新しい動きが出てきました。

一方で、昨年発生した市民生活の安全・安心を脅かす発砲事件については、残念ながら全面的な解決を見ないまま新しい年を迎えました。

今年は、本市再生のシナリオである「北九州市ルネッサンス構想」の部門別計画の目標年次に入ります。本市の発展の骨格である国際物流基盤プロジェクトも、春にはひびきコンテナターミナルに行き来する大型船が見られるほか、年末には新北九州空港でも試験飛行が始まるなど、長い間待ち望んでいたものがまさに現実になろうとしています。

今後は、特区制度や北九州学術研究都市の頭脳などのソフトも活用し、完成するインフラを最大限生かしながら、物流・交流の拠点性の回復と、わが国の産業空洞化を引き止める「日本のものづくりの防波堤」を目指していきます。

地方制度に目を向けると、三位一体改革に代表

される地方分権の進展により大きな変革の時期を迎えています。地方の知恵と行動力が国をも動かす時代です。

そのような中、昨年、環黄海圏10都市間で「東アジア経済交流推進機構」を発足させました。これまでの国際交流から、新たな段階として経済交流に軸足を移し、成長著しい環黄海圏のさらなる発展に向け活動していきたいと思えます。

また、市民みんなで策定した「世界の環境首都グランドデザイン」の理念と方向性のもと、心と力を合わせて世界の環境首都を創造していきます。

昨年の相次ぐ自然災害は、安全・安心面のハード整備の重要性と、地域住民の助け合う力の強さを改めて教えてくれました。本市でも、災害に強い都市基盤づくり、危機管理体制の再構築、住民ネットワークの形成などを一層進めてまいります。

新しい年が北九州市のさらなる飛躍の年となり、皆様にとっても、希望あふれる良い年でありますよう、心からお祈りします。

NPO法人北九州テクノサポート

会 長	秦 仲 吉 昭	理 事	小 野 晃 一
副 会 長	川 川 隆 昭	"	後 藤 禎 二
"	小 川 勝 昌	"	島 谷 哲 年
理 事	米 沢 昌 亨	"	鳥 越 藤 将
"	三 上 浩 静	"	重 藤 幸 一
"	石 川 東	監 事	増 田
"	安 東		

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2番1号 (株)北九州テクノセンター内
TEL・FAX (093)873-1453
<http://tsk.ktc.ksrp.or.jp/>

新春
座談会

中小企業支援とKTS活動



◇出席者 (順不同)

安藤 英和
北九州市産業学術振興局産業振興部長

山柿 勝利
(財)北九州産業学術推進機構専務理事

自見 栄祐
(財)福岡県機械金属工業連合会副会長

秦 吉昭
NPO法人・北九州テクノサポート会長

三上 亨 (司会)
" 理事・広報部会長

正面安藤部長、右側山柿専務、自見会長、左側秦会長、手前司会三上

三上 (司会) 本日のテーマは、「中小企業支援とKTS活動」、まずそれぞれの立場から、このテーマに即して1年を振り返って頂きたい。

この1年を顧みて

中小企業支援体制を体系化

安藤 市では、15年度に市内中小企業の1万5千社にわたる実態調査を行った。この中で、人材育成や経営者の資質向上、販路拡大等々、多くの課題が浮かびあがった。16年度はこれら課題に新たな問題も盛り込み、中小企業支援施策の体系化を図った。その基本方向は、まず“地域経済を支える既存企業の活性化”であり、もう一つは“創業・新分野進出への支援”である。この方向に基づき、施策の柱を立てた。



それともう一つ、市では15年8月に、新しいモノづくりのまちの実現を目指し、「北九州

州市科学技術振興指針」を策定している。

例えば、ロボット、バイオ、クリーン・エネルギー等、先進科学分野では、大学や研究機関等の智の力を借りながら、地元企業と一緒に新分野の開拓を推進している。この1月には、「モノづくり産業振興プラン」を策定中であり、年度内には公表の予定である。今後は、このプランに

基づいて施策を進めていく方針である。

総合的な支援を推進

山柿 我われの(財)北九州産業学術推進機構 (FAIS) の事業は、産学連携の推進と中小企業支援の両部門だが、この1年かなり前進したのではないかと見ている。

このうち、中小企業支援では、経営の安定化、競争力の強化等に、多様な支援を実施してきた。



新技術・新製品開発の面で頑張っている中小企業に焦点をあて、マネージャーが13社

によるプロジェクトを設定した。また、サブ・マネージャーが中心になって専門商社への商品紹介など販路の開拓に取り組んだ——これらはかなりの成績を上げたのではないかと考えている。

これからも、関係機関を交えマネージャーを含め、総合的な中小企業支援体制を強化していきたいと考えている。

活況の中に見られる2極化

自見 我われ機械金属業界のこの1年をみると徐々に活発になってきた。その一方で、素材の値上げが経営を圧迫しているという両面がある。

鉄の川上から良くなり、エンドユーザにも段々波及してきた感じだ。ここ10年、淘汰が進んでき

た。“卵と鉄”が物価の優等生と言われてきたが異常な低価格に悩まされてきた。昨年あたりの値上りは、我われに言わせると、むしろ価格の正常化だ。これで正常化した所と、素材価格の値上げに追突されて逆に悪くなった所と、一種の2極化がみられるのが、今年の現実だったように見られる。

今日のテーマの中小企業支援だが、私たちの組織でも国や県・市等に要望を出している。個人には憲法で保証されている基本的人権があるが、企業の生存権は保証されていない。これを認めて欲しいところだが、何でも要望というのは、さみだれ式の分散型になって効果が薄く、役所の組織が肥大化するだけということになりはしないか。

創業支援は、本来金融機関自体が見つけ、リスクを負って金を貸して育てるのが本来の在り方ではないか。そこにも矛盾を感じているところだ。



動き出した支援部会活動

秦 昨年は、NPO法人化後2年目を迎えた。我われの理念は、“産業振興支援を通じての社会への貢献”にある。その中心事業が中小企業支援である。



1年目は、まず活動の中核となる6つの支援部会組織の確立を図った。その活動を通じて、知名度のアップに努めた。

2年目に入った昨年は、この部会活動が本格化し、実績も上がってきた。市のエコプロダクツ事業、北九州産業技術博物館設置に関する諸調査事業への協力、中小企業支援センターの相談事業への参画等、中でも県商工部のものづくり振興会議助成第1号の「金属プレス成形金型産学連携研究会」への参画は、今年の活動の大きな目玉となった。

新年の展望と抱負

三上 明かるさが戻ってきたものの、素材の値上がりや2極化傾向等、問題点も少なくない。中小企業自体の課題とその支援対策について、各立場から新年の展望と抱負をお伺いしたい。

モノづくりプランを推進

安藤 新年度は、前述の「モノづくり産業振興プラン」に基づき、施策の推進を図りたい。次の重点ポイントを考えている。

第1に、今まではとかく縦系列の繋がりが多かったが、水平連携を進めるその手伝いをしたい。

第2に、知的財産の戦略づくりからそれに基づく事業計画立案の支援にも当たりたい。

第3に、創業・ベンチャー支援対策では、昨秋選定した27の元気企業など成功事例のPRを幅広く実施したい。

第4に、次世代産業への取り組みを掘り下げ拡げていく。昨秋、ロボットとバイオの実用化研究会を立ち上げたが、産学連携の強化により、優れた要素技術を持っている中小企業にも参加を呼びかけ拡げていきたい。

これら対策の推進を通じ、新年度は具体的な支援成果を挙げていきたいと期している。

営業力強化を重点支援

山柿 我われのFAISは、市が企画立案した施策の実行部隊である。今お話しがあったプランの推進に全力を挙げて取り組みたい。

当地の中小企業は、開発力はあるが営業力に欠けている所が少なくない。専門商社へのコネクト等の支援には特に力を入れたい。また、市が進める次世代産業づくりには我われも積極的に参画していく。

それと産学連携の面では、学術・研究都市の基盤整備が進んで内外の優れた大学・研究機関の集積が進んでいる。優秀な人材育成とともに、産学連携による共同研究や技術移転等にも力を入れていきたい。

日常に生かされる交流を

自見 私は、福機連、北中連、工場団地等の関係を通じて、幾つもの交流がある。この外、最近では、金融機関筋でも取引先を中心に青年層も含めて勉強会など異業種交流が盛んである。

水平の交流や連携も、よほど従来型と違った特色を出していかなければ続かないのではなかろうか。

今年は、将来を見ながらグループ内から落伍者を出さないようお互いに頑張っていく、そういう年にしていきたいものと考えている。

視察旅行では、神奈川やベトナム行きのインパクトが強かった。帰ってから生かしたいと思っ
ても、日常の繁忙に流されてしまい勝ち。

日常的継続的に生かされる仕組みを考えねばと思
っている。

施策推進にK T S活用を

秦 今年は、芽を出してきた支援部会活動を本
格軌道に乗せ、充実させていきたい。

行政や公的機関では、施策や事業の実践的展開
にぜひK T Sの起用を考えて頂きたい。国の助成
施策にも、積極的に応募しチャレンジしていくつ
もりだ。

産学連携支援部会が担当の「金属プレス成形金
型産学連携研究会」は、初年度がモデル研究、2年
目が実証、3年目が応用研究となっている。新年
度はこの2年目に入るの、前進を期待している。

現在はプレスの金属金型が対象だが、研究が進
めば他にも応用できるのではないかと。

それと、大分や関東、関西にも当K T Sと同様
な組織ができています。これらとのネットワークづ
くりも、次なる課題として検討したい。

提携交流は多面的に展開

安藤 市内には、かなりの数の異業種交流団体
があるようだ。新年度には、その調査を行って実
態を把握、これらの横の交流連携づくりのお手伝
いも考えている。

自見 インターネットの普及で、国の内外を問
わず情報の交流が目ざましい。鉄や自動車のメー
カーでは、さらに飛躍して資材調達や商取引にま
で動いているのが現実だ。業種によっては、人の
交流が大きくプラスになるものもあり、さほどで
もないものもある。

横の交流も、満遍なく全部をという発想ではな
く、的をしばって思い切った特色づくりを考える
べきだと思う。

安藤 支援センターでは、数年前から「ものづ
くり光継会」という後継者の勉強会の支援をして
おり、30数社参加のこの会では、当初から“企業
間で連携しての共同受注”の旗印を掲げている。

製造業での「マイスター制度」に次いで、業種
を問わぬ「技の達人制度」も発足させ、高度の技
術と技能の次世代への伝承を図った。連携交流に
ついては、多様なニーズに応えた多面的な展開を

期している。

K T Sへの期待・要望

三上 法人化後2年目の昨
年は、ようやく支援部会を軸
に組織も固まり、事業実績の
芽も出てきた。3年目に入る
新年は、事業展開と財政基盤
確立の重要な年となる。



ここで平素ご支援ご協力を頂いている各位に、
辛口のご注文も含め、期待要望をお願いしたい。

ご支援を得て前進の年に

安藤 まず、従前からの相談や巡回による専門
的支援は、更に進めて頂きたい。その活動への市
の支援は、できる限りご要望に応じていきたい。

特に新年度は、大学のシーズと企業のニーズの
マッチングによる知財戦略の推進が大きな課題と
なっている。この企業の技術ニーズの把握に、K
T Sの実践的な力をぜひ発揮して頂きたい。

それと、来秋オープン産業技術博物館に関する
事前の調査や開設後の運営について、ぜひK T
Sの継続的なご支援ご協力をお願いしたい。

山柿 我われF A I Sへの日頃のご協力には、
心から感謝している。

ただ、K T S会員個々の方の経歴や専門分野等
が、よく判らない。これがもっと具体的に明らか
になれば、一層連携が進むのではないかと思う。

自見 最先端や最高度の技術向上施策の重要性
は論をまたない。だが、その水準には達していな
い大多数の中小企業の技術・経営力のレベルアッ
プもまた肝要である。K T Sでは、これら企業を
もう一步伸ばすご支援をぜひお願いしたい。

秦 会員の多くは、専攻学科や最初の企業勤務
後の第2、第3の体験から、本来の専門分野以外で
も幅広い知識経験の持ち主である。ご指摘に応え、
より詳しく明確な会員リストを早急に整えたい。

新年は、各位のご期待ご要望に添って取り組む
決意であり、倍旧のご支援ご協力を頂きたい。

●おことわり

この座談会は、紙数の制約からご発言の一
部を圧縮又は割愛させて頂きました。しかし、
大意はお伝えしたつもりです。文責は編集子
にあります。ご了承方お願いします。

K T Sの動き

部会活動を核に事業進展 年末理事会で総括討議

K T Sでは、発足以来毎月1回（原則として第1週火曜日）、ほとんど欠かさず理事会を開催運営の衝に当たってきています。

昨年12月5日（日）には、岡垣町波津の「はつしろ」で定例理事会を開催、部会活動報告を受けて新年に入ってから活動方針について審議しました。

この年末理事会は、T・S会以来の慣例（一泊・自費負担）となっており、今回も熱心な討議の後には、小出支援センター長や沖流通アドバイザーもゲストとして加わり、懇親交流の歓を尽くしました。

当日の部会活動報告では、発足以来の地道な努力が県、市等関係機関にもしだいに認知され、各



H16. 12. 5 理事会（「はつしろ」で）

種助成事業の受託実績が徐々に出てきました。この芽生えはまだ初期段階ですが、来年度に向けて明かるい進展が期待されます。下半期以降の部会活動概況は、後記のとおりです。

会議では、このほか新年会報の編集・協賛広告の依頼分担について協議、また、11月末までの収支状況についての報告がありましたが、その双方ともに、K T S活動の着実な前進の足跡がうかがわれました。

昨秋エコ・テクノ2004開催 K T Sが全面的に協力

昨年10月27日～29日の3日間、北九州市小倉北区浅野・西日本総合展示場新館で、「エコ・テクノ2004」が開催されました。

北九州市等の主催によるこの催しは、“環境に配慮した製品・機器をエコプロダクツとして北九州市から発信”、環境負荷の低減と併せて環境ビジネス振興を図ることを目的に行われました。

この趣旨に添った環境配慮型67製品、環境機器14製品、計81製品が64社から、「エコプロダクツ選定製品」として、会場に展示されました。

また28日には、その代表として、日栄紙工社(株)、(株)エコウッド、(株)ジェイ・リライツ、フジコンテック(株)、(株)新菱の5社から事例発表が行われました。この展示会、発表会を通じて、多数の人びとが訪れ、関心の高さがうかがわれました。

K T Sでは、このフェアの推進役を務めた北九州市環境局環境産業政策室に計画当初から全面的に協力、対象事業所調査、訪問ヒアリング、事前審査、企業・製品選定等全般にわたって協力支援に当たりました。



H16. 10. 27～29 エコ・テクノ2004会場

調査活動等で協力

北九州市産業博物館の開設準備が着々と進んでいます。その一環として、工都北九州発展の歴史や先人・企業の努力、そして技術発展のプロセス等を明らかにし、未来志向につなぐ調査が行われています。また、北九州産業学術推進機構中小企業支援センターによる「企業情報調査」が約150社を対象に行われています。

K T Sでは、この両調査について、関係当局に協力し、訪問ヒアリング等第1線に立って調査活動に当たりました。

☆部会活動概況（下半期）

○技術・経営支援部会（秦吉昭部会長）

- ・ 北九州産業技術博物館関係
（株匠塾と協力、K T S 会員11名により企業調査に当たり進行中。
- ・ 中小企業支援センターに協力し、市内企業の約150社を対象に会員9名で訪問ヒヤリング、「企業情報調査」を実施。
- ・ 北九州エコプロダクツ推進事業
「エコ・テクノ2004」（10. 27～29）、「エコプロダクツ2004」（12. 9～11・東京ビッグサイト）において、調査、訪問ヒヤリング、事前審査・選定等にわたって全面協力。
- ・ 九工大にコーディネーター派遣
飯塚キャンパス 2名、戸畑キャンパス 5名（16. 12～17. 3月）

○産学連携支援部会（石川浩部会長）

- ・ 「金属プレス成形金型産学連携研究会」関係
前会報で報告の5回に引き続き、会主催の研究会・セミナーを7回実施。解析結果について活発に討議、成果を上げている。その成果を企業会員5社以外の関連企業に、K T S としてのP Rを実施中。〈第4回産学連携セミナー（10/6～8）にて北九州市立大コーナーへ展示・紹介等〉
- ・ 名古屋方面金型企業視察ツアー実施
11/25～26日、自動車部品を主とした金属プレス金型の設計製作を行っている（株）ナガラ、チヨダ工業（株）の優良企業を視察見学。K T S から4名、その他を含め9社17名が参加。
- ・ 「福岡県ものづくり産業振興会議」事業の一環として本研究会活動は、来年度も継続実施。経

産省の「生産現場における中核人材育成事業」の公募には、「金型関連人材育成プロジェクト」への参加を検討中。

○I S O支援部会（小川勝部会長）

- ・ I S O 認証取得、内部品質監査員レベルアップのための出前研修及び相談の実施。
- ・ E A 21（エコアクション21）関係
環境省が県・市等の協力を得て、16/11. 27、12. 17、17/1. 21、3. 4、セミナーを開催。
〈要認証コスト I S O 14000：250～300万円、E A 21：30万円〉
上記セミナーを補完して、市環境局ではフォローアップ・セミナー開催を検討中。その際はK T S がその運営受託の予定。

○E C O支援部会（島谷哲雄部会長）

- ・ 「環境家計簿のつけ方」の講師研修
“地球温暖化防止への家庭の協力”を掲げ、市が17年度より講習会開設を計画。その講師公募に、K T S から4人応募。講師研修に参加。
- ・ 「産業廃棄物資源化・減量化技術支援」関係
（株）北九州テクノリサーチより調査業務を受託、担当会員4人で訪問ヒヤリング（納期は17年1月末）
- ・ 派遣法改正により、16年3月から工場への人材派遣が解禁、しかし、派遣者には教育訓練が義務づけ。この教育訓練に、K T S 会員の知識経験を活用するため目下市場調査中。

○I T支援部会（安東静部会長）

- ・ インターネットによる広報活動を推進。ホームページのアクセス回数に増加。
- ・ 4件のP Rパンフを作成、K T S ホームページに掲載、営業活動を開始。

お気軽にご相談を！

K T S の正会員は、目下89名です。技術者のO B 集団ですが、その専門分野は、

機械・金属 34名、技術・経営・管理 24名、電気・電子 12名、化学 9名、情報・通信 8名、その他 2名、計89名

と広汎多岐にわたっています。

相談方法は、次のとおり種々あります。

1. 来所相談

所在：北九州テクノセンター1 F ・ 情報コー

ナー、K T S デスク

原則として、毎週月・水・金（祝日を除く）10：00～16：00、理事が交替で勤めています。（火・木は留守電で対応）

2. 出前による支援

直接事業所に出向いてご相談に応じます。詳細については、事前にご連絡下さい。

3. 企業ホームドクター

定期的に巡回し、継続して支援に当たります。ご希望に応じ、ご相談に応じます。お気軽にご連絡下さい。お待ちしております。

◆ 事業所めぐり 楽しい株式会社 Merry corporation

昨年の新年会報から始めた「事業所めぐり」、今回は、「楽しい株式会社」という設立後まだ日浅いながらユニークな経営での成長が注目されている環境産業ベンチャーです。

昨年11月26日午前、米沢、三上の2人で会社を訪れ、松尾社長にインタビューしました。以下はその要約です。

◇ 会社概要

- 所在地 北九州市八幡西区大字野面803-1
- 代表者 代表取締役社長 松尾康志
- 設立 2001年(平成13年)6月4日
- 資本金 2000万円
- 従業員 9名
- 主製品 事業用生ゴミ処理機「フォースターズ及び取扱商品 MD Tシリーズ」、グリーストラップ自動浄化装置、酸素溶解水質浄化システム、生分解100%洗浄剤「CERES」安全な竹割り箸、抗菌およびHCL補促剤、食品鮮度保持添加剤、各種環境コンサルティング事業

○ 会社の沿革

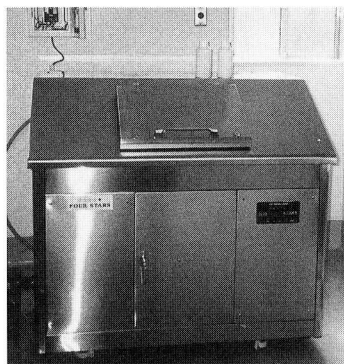
当社の設立は平成13年6月、まだ3年半ばかりのベンチャー。松尾社長が長年勤めた黒崎そごうを退職、起ち上げた環境リサイクル業である。

社長は、そごう在職時から“環境の仕事で世の中を良くする”志を立てており、そごうの外商担当時から、その関連の企業や人を注視していたという。この下地があってこそそのスタートだったと言える。

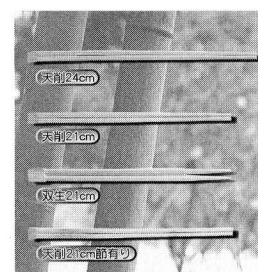
何といっても、会社名のユニークさが人の目を引く。小さな応接室の壁に掲げられた「経営理念」の額の冒頭には、“面白く、楽しく、助け合って通れよ”とあった。キャッチフレーズは、「お客様に喜ばれて楽しい 社会に貢献して楽しい 儲かって楽しい!」である。社長の揺るぎない人生哲学、人生設計の基本姿勢がうかがわれた。

○ 業況と社会貢献

設立時の取り扱い商品は、業務用の生ゴミ処理機である。投入された生ゴミは、24時間以内に水と炭酸ガスにほぼ完全に消滅する。フタを開ける



業務用生ゴミ処理機



安全な竹割り箸

と停止、閉めると始動する自動制御タイプ。処理槽内を散水・洗浄し、アンモニアを溶かし出して排水するため、嫌な臭いをシャットアウトする。

1台の価格は約350万円、処理機本体の約9割は韓国製、後1割を当社で完成品に仕上げ、業務用に飲食店、病院等へ販路を拡げていった。

一昨年4月からは、中国浙江省産の竹を使った“安全な竹割り箸”の販売を始めた。漂白していないため自然な色と香りを保ち、箸袋の内側は抗菌効果と焼却時のダイオキシン抑制効果を持つ酸化亜鉛と酸化アルミニウムでコーティングされている。この竹割り箸は、使用後回収して竹炭にして再利用される。この開発製品は目下特許出願中であるが、テレビ・ラジオや新聞・雑誌でも報道されて一気に販路が拡大、生産が需要に追いついていないという。今や生ゴミ処理機と並んで、当社成長の車の両輪となっているようである。

このリサイクル竹炭の売上げ収益の10%は、中国の植林活動に充当されている。また、生ゴミ処理機もその販売実績に応じて福祉施設に寄贈されており、当社の経営理念が活かされている。

○ 課題と今後の展望

と言って、起ち上りから坦々たる道のりであった訳ではない。松尾社長の言によれば、設立時から今日に至るまで悩まされ続けているのが資金ぐり。実績なし、担保なしのスタートで金融機関のハードルは高かった。売上げの伸長とともに増加運転資金の調達には現在も苦労が絶えないようである。それでもその将来性を認識してきた取引金融機関の支援に加え、対応策として取扱い商品のリース方式併用、連携パートナーの開拓等で、業容の拡大を図っていく戦略を立てている。

確固たる経営理念の下、環境産業の先行きを見据えた営業展開により、当社の今後発展に明るく楽しい期待が寄せられる。

新春
随想

変化への対処

(財)北九州産業学術推進機構

中小企業支援センター長 小 出 勝 敏

あけましておめでとうございます。

K T S会のみなさまには良い新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

めまぐるしいスピードで変化する経済環境は、I T関連を軸としたいいわゆる「デジタル景気」の盛り上がりがすでに調整局面に転じているとの観測が昨年暮れあたりから言われており、今年の景気はまたまた予断を許さない状況になるのではないかと危惧されます。

めまぐるしい状況変化はまさに息つく時を与えませんが、この変化に応じていかなければ明日への展望は拓けません。重要なキーワードの1つが「スピード」であるゆえんです。

昨年、12月初めに開催された“セミコン ジャパン2004”を見学しました。出展企業1600社あまり、こちらの不明もあって初めて聞く企業名が圧倒的多数でありました。ここにも「変化」を痛感

します。それはともかく、片やかねてなじみの企業名の中では“あの企業がどんな半導体関連製品を作っているのだろうか？”との思いが頻りで、私の中の企業イメージと半導体が結びつかないケースがたくさんあります。企業の中身が変わっている、あるいは変わろうとしているということでしょう。そして肝心なことです、その製品は当該企業の伝統的なコア技術の延長線上にあるということがわかります。製品技術は決してとっぴなものではないということです。「固有のコア技術をいかに今日的に適合」させるかということでしょう。

クライアントから提起される課題は多様ですが、上に述べたようなキーワードを踏まえ、如何に的確にそのニーズに応えられるかが問われているとの思いを致しながら会場を巡りました。

新春
随想I Tの利活用を
みんなで進めましょう

K T S 理事 I T支援部会 鳥 越 年 高

1960年(46年前)、私がコンピュータに出会った年であります。担当の品質管理の統計計算を楽にしようと思ってプログラムの勉強をさせてもらったのが、切っ掛けでした。

その後、ハードウェアは半導体技術の急速な進歩により、マイクロコンピュータさらにパーソナルコンピュータを誕生させました。

これにあわせて、ソフトウェアも、ユーザー固有型でなく、一般に利用可能なパッケージ型のもを作り出しました。さらに、インターネットならびに通信回線の開放と通信技術の進歩は、高度なコンピュータのネットワーク化を可能にするようになりました。しかも、億円単位の情報化投資

が10万円単位でできるようになりました。まさにI T化にモットエコイの時代になりました。

中小企業庁の「中小企業I T化推進計画」に示されるように、「安価で、高性能で、利用可能なI Tを利活用することにより、従来、導入コストが高く断念していた情報機器の導入や独自の情報システムの構築、さらに安価なブロードバンドとインターネットの活用による顧客とのコミュニケーションの強化により、経済活動の範囲を拡大し、「元気で、活力のある中小企業」に改革することが実現できる時代になりました。私もそう信じております。しかしながら、最近のI Tの利活用事例からして、中小企業庁は、下記の事項を成

功を左右する重要なポイントとして挙げております。

- 経営者が必要性を理解し、自ら積極的に関与すること。
- 経営課題を解決する手段として“IT活用”を図ること。
- IT化における推進担当者の育成と従業員の意識改革を行うこと。

○ 先進技術と経験・技・匠の組み合わせをIT化で実現すること。

○ 外部専門家（ITコーディネータ等）の活用を計ること。

これらは、私が情報システムの開発でも経験した真理であります。お手伝いをしますので、ITの利活用と一緒に推進し、会社の体質強化・改革を行いませんか。

新春随想



中国進出物語り

(社) 北九州中小企業団体連合会

会長 坂本 勝

「私の町は、鎌倉時代から組紐が伝統工芸なんです。その技術を日中友好とかで、町の職人が中国に指導に出かけたんです。そうしたら、中国が大量に安くつくれるようになって、それが輸入されて、私の町の組紐屋がどんどん倒産しているんですよ。人がいいですよ。日本人は」伊賀上野での話です。中国で成功したウラに随所にこのような話が出てきております。

身近な「つま楊枝」の話です。早くからインドで用いられ、中国に伝えられて仏教僧のあいだでも病を除去する七物の一つとして用いられていました。日本へは仏教伝来とともに伝えられ、上流貴族や僧侶の間でのみ用いられておりましたが、江戸時代になってひろく庶民のあいだにも用いられるようになりました。

この「つま楊枝」、現在どのようにして作られているかといいますと、太さ20～30センチほどの白樺の丸太を35センチほどの長さに切りそろえ、4時間お湯でぐつぐつ煮込みます。堅かった表皮がほぐれ、年輪を刻んだ木の芯が軟らかくなったところを、大根のかつらむきの要領で薄皮に剥いていきます。数ミリの薄い平らな皮になった白樺を今度は幅20センチほどの短冊型に切りそろえます。短冊を楊枝に型を持った鋼鉄製の刃に通し、丸みを帯びた細い軸を切り出します。後は長さをそろえて切断し、先端をとがらせ終わります。

一見、簡単につくれそうなつま楊枝ですが、実はこのような複雑な加工の工程とそれを支える加工機械が必要なわけです。

1960年から70年代にかけ、日本のつま楊枝生産を一手に独占していたのが大阪府南部の河内長野市の20数社のメーカーでした。生産量の95パーセントを欧米など世界に輸出しており、欧米では「キモノ」、「ゲイシャ」といったブランドで日本の楊枝が店先に並び、日本とは違いパーティーなどでスナックや果物を刺して食べる「カクテル・ピック」として親しまれていました。

ですが、日本の経済成長で人件費や原料コストが上昇、長野の楊枝業界は80年後半から安い人件費と原料の白樺が手に入る中国に生産を移転し始めました。

進出当初は、原料の白樺を煮て、薄皮にするまでの中間加工にとどまっておりましたが、やがて最終的な伝来の加工機械までも中国に移し、楊枝としての最終加工まで現地化してしまいました。

それが長野に深刻な結果をもたらしました。日本企業が持ち込んだ機械や生産のノウハウをそっくり模倣した中国企業の参入ブームが起き、本家の日本メーカーと競争を始めました。現地進出した日本の楊枝メーカーに勤めた中国人技術者が装置の構造を把握し独立したわけです。人件費や輸送費、通関の手間などでホームグラウンドの有利さがあるのは当然のことです。

廃業が相次ぎました。日本の業者は新規参入した中国メーカーとの競争に敗れ、衰退の道をたどり、日本からの輸出製品も欧米市場で中国製品に押されて、シェアをどんどん低下させていきました。

中国に進出したことが、カギとなる技術の流出を招き、中国企業に市場を奪われるという、日本の様々な業種で起きた現象をつま楊枝業界が典型的な型でしめしています。

お知らせ

日韓産業技術交流ミッション 2. 16～18 西日本展示場で

「九州（日本）・韓国経済交流会議」の一環事業として、「九州（日本）・韓国産業技術交流ミッション」が、韓国政府とその関係機関の協力の下に、下記のとおり開催されます。

1. 主催 九州・韓国経済交流会議運営委員会
(九州経済産業局、九州各県・政令市、九州機械工業振興会等で組織)
2. 開催日 17年2月16日(水)～18日(金) うち、商談会は2月17日(木)

3. 場所 小倉北区・西日本総合展示場
4. 対象 機械・金属、金型などの企業が対象。
業種 同時期に「ロボット関連産業マッチングフェア2005」開催
5. 参加者 韓国側企業 20社程度
6. 問合せ先 九州機械工業振興会 ☎093-861-3001

編集 後記

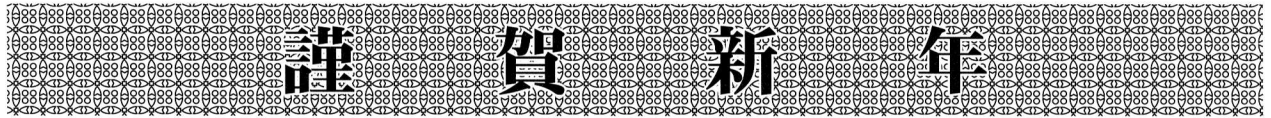
北九州T Sニュース新春第4号をお届けします。T・S会ニュースから通算すれば第17号

です。

NPO法人化後、3年目に入ります。今年にはようやく出てきた実績の芽を育て実らせる発展の年としたいものです。

ご寄稿ご協賛を頂いた関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、今後一層のご支援ご協力をお願いいたします。

(T・M)



世界初、革命的発想！！
緩まない！スーパーボルト・ナット



◆詳しくはHPへ <http://www1.lbbiq.jp/daikikogyo>
大喜工業株式会社
〒801-0856 北九州市門司区浜町11-16
TEL:093-331-0761 FAX:093-332-4283

KTR 株式会社 九州テクノリサーチ

環境調査・測定分析・ダイオキシン類の測定
材料分析・試験
製品・部品・材料・プラント設備の各種調査診断
環境アセス・コンサル、
ISO14001、9001の取得支援

〒804-0001 北九州市戸畑区飛幡町2-1
TEL 093-872-5408 FAX 093-872-5368
<http://www.k-t-r.co.jp>



産業廃棄物処理
プラスチックリサイクル
溶剤リサイクル

高野興産株式会社

本社 北九州市八幡西区御開2丁目5-1 TEL 093-691-2790
北九州工場 北九州市若松区響町1丁目62-19

ウォータージェット&レーザー精密切断
精密な切断ならお任せ下さい。(多くの材質に対応)
切るだけでは駄目のお客様は精密板金部門で対応。

佳秀工業株式会社

(北九州メタルアート研究会事務局)

北九州若松区南二島二丁目24-10
TEL093-701-3131 FAX093-701-2111
ホームページ <http://www.kasyu.co.jp>
E-mail: kasyu@kasyu.co.jp

謹賀新年

福祉現場のニーズに応えた商品を、 北九州市の企業のみならずといっしょに創っています 福祉用具への参入企業募集!

発売商品例

- 折りたたみ介護ベッド (電動昇降型)
吉川機械工業株式会社
- おむつ交換カート「さわやかもちゃん」
株式会社セントラルユニ
- 光触媒脱臭機 (福祉施設・病院用)
東陶機器株式会社
- 在宅・施設用徘徊感知機「with you」
株式会社アダプテック
- ベッド用転落予知装置
ビービーエスシステム株式会社
- セーフティシール「ほっとシール」
日本乾溜工業株式会社
- 座位保持機能付き車いす「エイブルチェア」
株式会社有蘭製作所
- エイブルクッション
株式会社有蘭製作所
- パーソナルクッションkit
(社福) 北九州身体障害者福祉事業協会
とりはた玄海園

社会福祉法人 北九州市福祉事業団
福祉用具研究開発センター
北九州市小倉北区馬借1-7-1 北九州市総合保険福祉センターF
〒802-8560 Tel:093-513-1815 Fax:093-522-8771

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.kati.gr.jp/>

『モノづくり技術で社会に貢献する』 吉川機械工業株式会社

- 営業品目
- ・一般産業機械の設計製作及び
工作機械の修理、改造
 - ・真空包装機械の製造
 - ・介護ベッドの製造販売

〒804-0077
北九州市戸畑区牧山海岸4番17号
TEL (093) 883-0884 FAX (093) 883-0908
E-mail: yhkwan@yoshikawa-m-i.co.jp
Home page: <http://www.yoshikawa-m-i.co.jp>
Home page: <http://shindaigo.co.jp> 真空包装機械の紹介



より精密により高品質に!

ファインセラミックス&不定形耐火物

大光炉材は、ユーザーニーズへの迅速・
確実なレスポンスをモットーに、独自の
技術開発力を武器にダイナミックな展開
をしています。

大光炉材株式会社 〒804-0054北九州市戸畑区牧山新町1-1
新素材開発部 (ファインセラミックス)
<http://www.taiko-ref.com> Tel:093-871-8356, Fax:093-882-7300

CAD、CAMの導入・活用、
生産管理のご相談は当社へ!

ASA 株式会社 エーエスエー・システムズ

代表取締役 麻上俊泰

〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町3番3号
TEL (093) 882-0100
FAX (093) 882-0066

各種表面処理に関することなら「美と機能を
創造する ishikawa」におまかせ下さい!

営業種目

- ①各種電気めっき
- ②プラスチック成形及びめっき加工
- ③各種研磨加工
- ④その他表面処理
- ⑤産業機械製作・販売
- ⑥住宅関連機器販売及び施工、メンテナンス

石川金属工業株式会社

代表取締役 石川 増太

本社 〒802-8512
北九州市小倉北区赤坂海岸2番1号
TEL. 代表(093) 541-3331 FAX (093) 541-3260
ホームページアドレス <http://www.ishikawa-k.co.jp>



GL PIPE JOINTS 好評です

GASKETLESS管継手

パッキンのいらない

新製品賞 '99中小企業
優秀新技術新製品賞

福岡県知事賞
中小企業先端技術展
福岡県知事賞

The Creative Corporation
株式会社 大創 福岡県北九州市八幡東区西本町4-5-1
TEL ... (093) 681-7195
FAX ... (093) 681-7196

ご質問・お問い合わせは 専用FAX: (093) 681-7197

この町で地域医療のお手伝い。

株式会社キューリン
MEDICAL LABORATORY

〒806-0046 北九州市八幡西区森下町27番25号
TEL 093-642-3911 FAX 093-642-3967



“KOLA”

21世紀に向け最強!サイエンスの助っ人。

これからは、情報も技術も専門化の時代です。
遺伝子関連の技術は、**KOLA**にお任せ下さい。

KYURIN
MEDICAL LABORATORY

製品と一緒に納品するもの、

ardou

熱意

それは熱意。

ミツワ製作所は、
日本一早く、
品質の安定した
旋前加工を目指す。

株式会社 **ミツワ製作所**

〒800-0211
北九州市小倉南区新曾根3-1
TEL (093) 471-7220
FAX (093) 473-5707